

日本の医療費増加に最も影響する心臓血管危険因子は「高血圧」

糖尿病や脂質異常症、高血圧など、肥満に関連した心臓血管危険因子と腹部肥満が医療費に及ぼす影響について、腹部肥満の有無別に比較検討した。

茨木県の健康診断を受診した住民を対象とした茨木県健康研究の参加者のうち、国民健康保険に加入する40~75歳の住民43,469人の診療報酬データを2009~2013年まで追跡した。その結果、心臓血管因子および腹部肥満がない場合と比べた医療費比は、腹部肥満を伴わない場合は糖尿病が1.58倍、LDL-コレステロール高値が1.06倍、HDL-コレステロール低値が1.27倍、高血圧が1.31倍、(いずれも $P<0.05$)であり、腹部肥満を伴う場合には糖尿病が1.42倍、LDL-コレステロール高値1.03倍、HDL-コレステロール低値が1.11倍、高血圧が1.26倍、腹部肥満のみで他に心臓血管危険因子がない場合には1.15倍であった(LDL-コレステロール高値を除き、いずれも $P<0.05$)。また、各心臓血管危険因子の人口寄与割合を比較したところ、腹部肥満を伴わない場合には糖尿病が2.8%、LDL-コレステロール高値0.8%、HDL-コレステロール低値0.7%、高血圧が6.5%であった。腹部肥満を伴う場合の人口寄与割合は腹部肥満1.0%、糖尿病2.3%、HDL-コレステロール低値0.4%、高血圧が5.0%であった。

今回の結果から、肥満に関連するとされる心臓血管危険因子のなかでも、高血圧は腹部肥満の有無にかかわらず医療費の増加に最も寄与すると考えられる。

出典：Journal of Epidemiology. 2017; 27(8): 354-359